

クビアカツヤカミキリに注意！ モモ・ウメなどの樹を食害します！

1 クビアカツヤカミキリの発生状況

◆平成28年7月、大阪狭山市のウメ園において、カミキリムシ科の成虫を捕獲し、周囲のウメの幹に虫孔（成虫の脱出口）やフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物）を確認しました。

同定の結果、これまで大阪府内で確認されていない「クビアカツヤカミキリ」と判明し、特殊報を発表しました（平成28年8月2日）。

◆平成29年の巡回調査で、主にサクラで新たなフラスが見られ、食害が進んでいることを確認しました。

◆6月中旬より成虫の羽化脱出が始まることから、今後は新たな樹へも飛来し産卵する恐れがあります。園地やその周辺をよく見回り、フラスや成虫を発見したら速やかに防除を行いましょう。

2 クビアカツヤカミキリの生態

◆成虫の体長は3～4cm。全体は光沢のある黒色で、前胸は明赤色。

◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。

◆幼虫は4月に摂食を始め、5～6月に最も摂食活動が盛んになる。6月に蛹化し、成虫は6～8月に出現する。成虫は幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後には卵が孵化する。

◆サクラ、カキ、ウメ、モモ、ザクロ、オリーブ、ヤナギ、コナラなど多くの樹種に寄生するといわれている。



クビアカツヤカミキリ成虫

2 被害の状況

◆幼虫食入孔より排出されるフラスはうどん状で、時間が経つと固くなる。この「うどん状フラス」がある場合、樹の中に幼虫がいる可能性が高い。

◆羽化した成虫が樹より脱出する際に排出する木くずは、おがくず状で固まらない。脱出孔は食入孔よりかなり大きく、扁平であることが多い。

◆食入部位（フラス排出部位）は、地表に現れた太い根から大人の身長程度までが多いが、3m以上の高い場所に食入することもある。

◆多数のカミキリムシが寄生し、樹の内部を食い荒らされると、樹勢が低下しやがて枯死する。



うどん状フラス（幼虫の糞）



成虫脱出後の木くず

3 クビアカツヤカミキリの防除対策

◆成虫は見つけ次第、捕殺する。

◆うどん状フラスがある食入孔を見つけたら、千枚通しや針金等を食入孔に入れ、中のフラスをかき出してから薬剤を注入する。針金が幼虫まで届く場合は、針金で突き刺し殺虫するとより効果的である。また、千枚通しや針金の先を曲げておくとフラスがかき出しやすい。

◆樹の株元から1～2m程度の高さまで4mm目合いのネットを巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に移動するのを防ぐ。ただし、ネットをかみ切ったり、隙間から脱出する場合もあるので、ネット設置後も見回りをを行い、捕殺する。

クビアカツヤカミキリの防除薬剤

薬剤名	作物名	適用害虫名	使用方法	使用時期	使用回数
ロビンフッド	うめ、おうとう、かき、かんきつ、なし、びわ、ぶどう、もも、りんご、マンゴー	カミキリムシ類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	2回以内
	果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう(種子)、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く)				
	さくら	クビアカツヤカミキリ		—	6回以内
ベニカカミキリムシエアゾール	うめ、おうとう、かき、かんきつ、なし、びわ、ぶどう、もも、りんご、マンゴー	カミキリムシ類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	2回以内
	果樹類(かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう(種子)、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く)				
	さくら	クビアカツヤカミキリ		—	6回以内
パイオリサ・カミキリ	果樹類	カミキリムシ類	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける	成虫発生初期	-

【防除薬剤については以下も参照ください】

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

【本防除情報及び平成28年8月の特殊報はホームページにも掲載しています】

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>

